

第6回デジタル化の急速な進展やニューノーマル に対応した都市政策のあり方検討会 議事概要

日時：令和3年3月22日（月）15:30～17:00

場所：中央合同庁舎3号館6階都市局議室

※事務局から資料に基づき発表がなされた後、委員間において以下の意見交換がなされた。

○意見交換

（中間とりまとめの全体像について）

- ・ 国交省で、今年このテーマで速やかに取り組んだことは良かったと思う。ぜひ、次のアクションにつなげてほしい。
- ・ 既存のマスタープラン型の都市計画に対し、機動性、アジャイルといった新しい方向性を提示していただけたのはよかった。
- ・ 「人間中心」や「市民目線」、またデータの取扱として「オプトイン」等のキーワードを明示されていてよかった。カナダのトロントではオプトアウト型で失敗していることも踏まえて、日本モデルとしてはオプトイン型の考え方が重要である。
- ・ 今回の検討会の中間とりまとめは、ボトムアップ型が色濃く出ている。ボトムアップ型も大事だが、ボトムアップで意見やアイデアを集めつつ政策は最終的にトップダウンで決める、その両輪が重要である。

（個別の記載内容について）

- ・ 市民目線の圏域設定とあるが、「圏域」は報告書全体を通じたキーワードの一つとなっており、もう少し明確に記載してもいいのではないか。
- ・ 圏域の設定について、国土計画の議論をしていたときに、「生活圈」という考え方が出てきていたが、これは、非常に重要な考え方だと思う。都市サービス等が維持できる適切な人口規模として、これまでは30万人程度だと言われてきたが、デジタル技術を使えば10万人程度でも維持できるようになるのでは、という議論もある。
- ・ 既存のアセットを活かすことの価値について、カーボンニュートラルや環境への負荷軽減という観点も重要なので、キーワードとして記載するとよい。
- ・ 「都市アセットの利活用が重要」である理由の記載が少なく、これがなぜ、ニューノーマルに対応したまちづくりにつながるのかがわかりづらいため、やや唐突に感じる。過去の官民のインフラ等への投資を資産として見直し、活用していくということかと考えられる。この点、開発と運営の総合的マネジメントの記載もあり、今でも書かれているのかもしれないが。
- ・ 中間とりまとめ報告書の P11 図3（施設の分類と都市アセットの考え方）について、

黒点線の矢印の意味が分かりづらいので、凡例や注釈をつけてはどうか。

- ・図3（施設の分類と都市アセットの考え方）は重要な図であるため、概要版に入れてもいいのでは。

（中間とりまとめの更新について）

- ・都市計画学会において都市計画の構造展開を議論している。「アジャイルなまちづくり」という概念は、今回の中間とりまとめで出てきた新しい概念だと思うが、迅速かつ機動的にまちづくりを行っていくべきというのが、コロナ禍を踏まえた今の話なのか、永続的にずっとやっていくべきことなのか、両面あると思うので、今後も問題意識をもって取り組む必要がある。その観点からも、この中間とりまとめについて将来的なフォローアップ、見直しを行ってほしい。
- ・コロナ禍の影響は今時点で見極めるのは難しく、今後のフォローアップは必要。学会とのタイアップも必要ではないか。
- ・フォローアップの必要性について同意。この中間とりまとめは国のマクロな方向性を示してはいるが、国全体で共通した目指す方向があるというよりは、小さな圏域単位で様々な取組を実験的に行っていくことを前提にしたものである。それぞれの取組がうまくいくか、またそれぞれの取組を踏まえ、全国展開すべき政策はあるのかを検討すべき。この中間とりまとめを起点としてフォローアップが必要。
- ・今後、図3（施設の分類と都市アセットの考え方）について、2枚に分ける、ベン図のような形で表現する等、バージョンアップを検討してほしい。

（今後の取組について）

- ・今後に向けた取組の部分について、アセットの利活用のために使える空地进行をどう生み出すか、都市開発と連動した新しい仕組みなども検討してほしい。
- ・この中間とりまとめのキーワードとしては、「都市アセット」と「デジタル化」だと思うが、今後進めていくに当たっては、スマートシティ等で取り組んでいるように、他省庁との連携も重要だと考えられる。不確実性も大きいと思う。
- ・今回とりまとめるこの中間とりまとめについて、今後世の中で広く議論されるような取組も必要。例えば特許庁では NewsPicks で特集を組んだりイベントを実施したりして、世間の関係者を巻き込んだ議論を誘発している。この検討会の中だけで閉じるのではなく、もう少し広く議論を起こすことを考えてはどうか。今後の取組として検討いただきたい。

以上